

今後の研究計画

研究目的

高次元極限を用いた高次元ブラックホールの研究

非線形偏微分方程式であるEinstein方程式は高次元時空においては一般に扱いが困難であるが、高次元極限においては単純化され、複雑な形状を持つブラックホールホライズンやブラックホールダイナミクスの解析が容易となる。電荷やスカラー場などの物質場が存在する場合、重力理論が修正される場合など、より一般的な場合のブラックホール解について、その形状やダイナミクスについて理論研究を行う。また、これまではホライズンの変動が比較的緩やかであることを仮定した定式化を用いてきたが、それらが適用できない重力崩壊やブラックホール衝突などホライズン形状がより激しく変化する状況化での高次元極限を研究する。

研究内容

1、高次元有効理論の一般化

高次元極限においては、Einstein方程式の解析が容易になる。ブラックホールホライズンの揺らぎの解析は多くの場合、解析解が得られるまでに単純化されるか、あるいは単純な数値積分を行うことに帰着する。現在のところ、いくつかの非一様ブラックホール解が高次元有効理論アプローチを用いて求められたが、それらは異なるセットアップの元に導出されている。そこで、申請者は共同研究者と共に、一般的なセットアップにおける、高次元有効理論を導出する。さらに、時空が電荷や他の物質場を含む場合への拡張を行う。

また、高次曲率理論（Gauss-Bonnet理論、Lovelock理論）への一般化を研究する。高次元時空の存在を予言する超弦理論においては、同時に作用における高次曲率項の存在もまた予言されるため、高次元時空を研究するならばこれらの補正を含めるのが自然である。現在のところ、Bin Chenらによって、Gauss-Bonnet理論への適用可能性が示されているが、回転解への適用可能性は知られていない。申請者はGauss-Bonnet理論における回転ブラックホール解やより一般的なLovelock理論における解について、高次元有効理論を用いた解析を行う。

2、AdS/CFT対応への応用

高次元極限は非一様なブラックホール時空に対して有効なアプローチであり、AdS/CFT対応を通して境界面上の場の理論への応用を研究することで、一般には解析が難しい非一様な系に対して解析的な結果を得られる可能性がある。以下の研究を行う予定である：

- AdSブラックブレン上の衝撃波衝突
- ホログラフィック超伝導への応用

3、ホライズンに大きな変動が存在する状況下における高次元極限の研究

これまでの研究では比較的緩やかに変動するホライズン近傍時空の高次元極限が主に調べられてきたが、より激しい変動が存在する場合や、ホライズンから遠方で起こる現象については、これまでの定式化の枠内では正しく扱えていない。特に、重力崩壊やブラックホール衝突に伴う重力波放出では、数値解析や別の極限を用いた解析計算から高次元極限の存在が示唆される。これらの現象の高次元極限について調べ、従来とは異なる定式化を研究することで、高次元極限が適用可能な状況を拡大することができる。